

その先の返済は免除するような豊橋版の奨学金を作ったらいかがでしょうか。豊橋市の平均的なサラリーマンの年収は453万円だそうです。その方の支払う市民税は年間12万7000円。もしその方が、50坪の土地に30坪の家を建てた場合、年間、約11万円の固定資産税が市の財布に入ります。軽自動車に乗れば1台につき1万800円、ほかにもタバコ税や、物を買えばお店の法人市民税、従業員の市民税、消費税の地方分、等々、その人が豊橋に住んで、生活をするだけで市にとっての財政的メリットがありますから、奨学金を一部帳消しにしたところで、将来的に戻って来ます。それがまた子供を産み、人口を維持してくれるれば、益々、結構なことです。私は奨学金というのは貧しい家庭の向学心の高い子を助けるという側面も大切ですが、貧しい子も裕福な子もできれば誰もが受けられるものが理想だと思います。豊橋で生まれたら、その子供が親に迷惑をかけず、自分自身の経済力で大学へ行き、自己完結できる。仮に親が金銭的に大学へ出してやるのができたとしてもそのお金は、親にとっての大事な老後の資金になるはずだったのかもしれない。これからの時代、年金の額も減ってくるのが予想されます。子どもを大学に出したら、「出せたけど、親が貧困になった」では困ります。また、奨学金を受けたは良いけど、大学卒業と同時に400万円の借金を背負って社会に放り出され、後悔している方もいるようです。「中小企業かもしれないけど、責任ある仕事が任されて、かえって大企業勤めよりやり甲斐があるかもしれない、10年で返済免除になるなら生まれ育った豊橋に戻って働いてみよう！」と思う学生さんは多くいるはずです。真剣に豊橋の人口を減らさないためには、単なる貧困対策ではなく、地方創生的発想の豊橋っ子をUターン就職させ



る、もちろん地元の大学を出ても地元に残りたいと思わせる豊橋版の奨学金を作るべきと考えますが、市長の考えを伺います。

市長：昨年行った市内3大学での調査では豊橋の大学生は卒業後市外へ流出する傾向が強いことがうかがわれました。

学生の定着は大きな課題の一つであると認識しており、卒業後も豊橋に住み続ける、あるいは卒業を機に豊橋へ帰るといった若者の定住インセンティブとなる施策の立案に向け取り組んでいるところです。

議員ご提案の豊橋版奨学金も、若者の定着を促す上で意義のあるものと理解致しております。

ただ、実施に向けては多くの課題もあろうかと認識しておりますが、夢に向かって努力したいと思う若者への支援は必要と考えており、地元経済界も巻き込んだようなファンディング的手法も視野に入れた財源確保も含め、その実施の可能性について検討して参りたいと思います。

議会での質問を動画でご覧いただけます。

中村竜彦

録画中継

検索



『豊橋ほっとメール』もう登録してありますか？

携帯電話は一般電話に比べ災害時に強いと言われております。「豊橋ほっとメール」は、豊橋市内での防災情報、防犯・不審者情報、交通安全や消費生活などの情報を個人個人にメールで配信するサービスです。まだ登録されていない方は是非、登録をお願いします！

<登録の方法>

tou@anzen-ansin.net



上記のアドレスに、件名も本文も空白のままメールを送信いただくと、すぐに登録用のメールが返信されてきますので、そのメールに従って登録手続きを行ってください。

※携帯電話に迷惑メール防止機能を設定している場合は「anzen-ansin.net」を受信できる設定にしてください。



あなたの声をお聞かせ下さい。

FAX：0532-47-2648

お送り頂いた声は一つ一つ中村本人が目を通して頂き、議会および地域での活動の参考にさせていただきます。